

「アストラテックインプラントの様々な応用」と 「インプラント周囲組織のオギュメンテーション」

講師：Homayoun Zadeh (南カリフォルニア大学准教授)

日時：平成24年7月7日(土)・8日(日)

場所：アストラテック株式会社研修室



脇田 雅文 (神奈川県)

平成24年7月7日(土)、8日(日)の両日、南カリフォルニア大学 Homayoun Zadeh 准教授を迎えオッセオスピードインプラントのハンズオンコースを含む講演が行われた。

Zadeh先生は日本ではUSCジャパンプログラムの講師の先生として幾度か来日されておられ、また南カリフォルニア大学のインプラント包括プログラムディレクターであり、ペリオシンポジュームの座長として全米では多くのインプランジストに知られている。

内容は「アストラテックインプラントの様々な応用」と「インプラント周囲組織のオギュメンテーション」が行われた。

1日目の講義と実習はアストラテック(株)の研修室で講義と実習が行われた。

その講義内容は、ショートインプラント オッセオスピード4.0S 6mmというショーとインプラントを用いた症例ならびにナローインプラントオッセオスピード3.0Sを用いた症例を多くの文献を加え解説をしながら講義を行った。

今回の講義で私が特に興味を持った内容はAll-on-4コンセプトと同じ下顎の4本による全顎即時荷重埋入の傾斜部分にAstra Tech Profile Implantを用いた“Uni-for-Fixed™”についての講義があった。このインプラントコンセプトを用いることにより、傾斜埋入部分が従来のインプラントと違い表面処理された部分が歯槽骨内にとどまる特徴がある。

講義が終了したのち豚顎骨を用いた実習が行われその後懇親会が行われた。

2日目はインプラント周囲組織のオギュメンテーション、即時荷重、軟組織マネジメントに有効な手技VISTAテクニックについての講義が行われた。

Zadeh先生自らが開発したこのテクニックはVestibular Incision Subperiosteal Tunnel Accessの略で口腔前庭内に最小な切開線を用いて骨造成を行う方法である。この方法は筆者も用いたこともあるが予想していたより簡単な手技で大きな骨造成が望める有効な方法である。

即時荷重については昨日の講義内容をさらに詳しく文献を交えて語られた。

特に本日の内容では、即時荷重を行うガイドラインのひとつとして埋入トルクの重要性が従来より言われてきたが、今回埋入トルクがさほど必要がないことが講義された。

今回、2日間にわたってインプラント治療における骨造成、即時荷重のいろんな側面を学ぶことができた有意義な研修会であった。

